

◇ 深 沢 義 一 君

○議長（高橋 猛君） 次に、17番、深沢義一君の一般質問を許可いたします。深沢義一君、登壇願います。

（17番 深沢義一君 登壇）

○17番（深沢義一君） 通告に従いまして質問をいたします。

4年連続の大雪となりました。特にことしは、春がいつ訪れるのかと思うほどの積雪であります。3月も半ばであります。春を待ち焦がれる思いとともに、今定例に示された平成26年度の町の取り組みに大いに期待しながら質問をいたします。

さて、私の今回の一般質問は、3項目について一問一答により質問をいたすわけですが、質問に至った背景には、交流人口の拡大に少しでもつながる施策に結びつけられればと思うことからの質問であります。そしてまた、町の活性化、さらには町民の癒やしにも結びつけられればと思うところからでもあります。

まず初めに、その癒やし、癒やしの郷美郷を目指してのまちづくりについてであります。

町は今、清水や生薬の栽培、そして、ラベンダー園など、町にある資源と町の将来に向けたこれまでの取り組みによって、内外に誇れる癒やしの郷、癒やしを体感できるまちづくりに進んでいると思っておるところであります。また先日は、本町オリジナル品種白色ラベンダー美郷雪華に特化した特産品商品としてルームフレグランスが発表されましたし、また、その酵母を使っての日本酒の製造にもめどが立つなど、香りや嗜好品についても癒やしをほうふつさせる商品がそろい、癒やしの郷としての顔がまたふえたことに大変喜んでおるところでもあります。

そうした中、今定例会初日、町長の平成26年度施政方針にも、交流促進プロジェクトの新たな取り組みとして、国内におけるラベンダー栽培の本場、北海道中富良野町と相互にラベンダーの苗を提供し合い、双方のラベンダー園に植栽するなど、ラベンダーを通じた新たな自治体間交流を進めるという施策方針も示されました。そしてまた、その具体の展開のために、美郷雪華PR事業として35万円ほどの予算も計上され、あの北の大地、富良野、美瑛といった花による一大観光地に美郷の名前を冠した白色ラベンダー美郷雪華が植栽されることは、そのネーミングからしても、北の大地を訪れた方々の心に美郷町の名前も刻んでもらえるものと思いますし、また、それによって当町への来訪者も多くなるのではと大きな期待を持つものであります。

そこでまず1つ目の質問として、その取り組み、事業展開についての具体的内容について伺いたいと思います。

また2つ目として、今現在、ラベンダーやパークゴルフなどを中核として、町内外から親しま

れている大台野の一带について、あの地形からして長期計画を持ってその整備を進めることで、ラベンダーの美郷、美しい郷、秋田の美郷として町の大きな観光資源となり得るものと思いますし、また、町民の癒やしの場としてなど、大きく発展するものと期待するところでもあります。草地としての畜産農家への配慮やさまざまな課題もあることと思いますが、先ほど申し上げましたように、富良野や美瑛のような色とりどりの大地をつくり上げてはと思い描くところでもあります。特に私は、中富良野町の町営ラベンダー園やファーム富田、そして美瑛の丘の花畑をイメージするわけではありますが、聞くところによりますと、色とりどりの花は、紫のラベンダーはもとより、赤や紫のサルビア、白やピンクのクレオメ、黄色やオレンジのマリーゴールドなどの一年草も多種植えられており、観光期間、鑑賞期間を長くするため、何回かにわたって植栽されているとのことでもありましたし、そうした取り組みによって、また行きたくなるまち、リピーターの多いまちになっていることだろうと思うところでもあります。そうしたことから、当町もラベンダーや草花の植栽などにより、また行きたくなるまちにつながってほしいものと考えているところでもあります。大台野の一带についての今後の計画について、町長の考えを伺いたいと思います。

3つ目ですが、町民の癒やしや活力につなげる取り組みとして、防災行政無線を活用しての音、つまりは耳からの癒やしや活力につながる効果を期待しての質問をいたします。

防災行政無線につきましては、さきの大震災においても大きな設置効果を発揮したところであり、その後も気象情報を中心に、町民への安全・安心に向けた放送をしておるところでもあります。その放送、音についてのさまざまな意見があることも承知しております。そうした中、その無線を活用しての癒やしにつながる放送や情報の提供があってもよいのではないかとといった町民からの意見もあります。防災行政無線は、近隣では、合併前の仙北町、大雄村、大森町、雄物川町などで設置されており、災害放送以外に、旧仙北町では朝7時に市民歌、昼12時に学校のチャイムと同じウェストミンスターの鐘、また、午後6時には童謡の「ふるさと」が流されており、また、旧大森町では、午後6時に「七つの子」が流されておるようでもあります。また、火災予防や交通安全についてなど、安全啓発のための放送を行っているところもあるようでもあります。防災行政無線の本来の目的は、有事や大規模災害への対応システムであり、それを拡大しての利用は、騒音公害といった要素もあるわけでもありますので、慎重な運用が必要でありますけれども、私自身、横手の近くに行った際に、夕方に「七つの子」の童謡を耳にすることがありますが、夕焼けの美しいときなどに聞く音は、心が癒され、やさしい気持ちとともにあしたも頑張ろうという活力にもつながっているように感じますし、ぜひ美郷でも思っているところでもあります。設備の故障などの確認という一面も含め、防災行政無線の癒やし、活力への効果を期待するもので

すが、町長の考えをお伺いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまの、癒やしの郷美郷を目指してのまちづくりについてのご質問に答弁いたします。

初めに、北海道中富良野町との交流についてですが、昨年の秋、中富良野町を訪問する機会がありまして、その際、中富良野町長と会話いたしました。その中で、秋田県美郷町の町の花がラベンダーであること、そして、美郷町には白色系オリジナル品種美郷雪華があることなどを話しておりますが、そのことがきっかけになり、今般ラベンダー品種の相互贈呈と双方の町営ラベンダー園での栽培が実現する運びになりました。贈呈に関しては、初めにこちらから、ことし5月中旬を目途に中富良野町を訪問し、美郷雪華150株を贈呈することとしており、その後、中富良野町長が美郷町にお越しになり、中富良野町より同数のラベンダーをご恵贈いただく予定になっているところです。現在のところ、申しわけありませんが、交流についてお話しできることはこうした内容です。今後、双方の訪問機会に交流の幅をさらに広げていくことで、中富良野町長と話し合いをしてみたいと存じます。また、交流の具体的な構想的な内容については、個人的な思い描いている事柄はあるのですが、相手がいらっしゃることですので、現段階での明言は控えたいと存じます。自治体間交流ですので、ラベンダーを中心にした交流を核として、産業振興や地域振興、防災関係など幅広い分野で意見交換してみたいとは考えています。

次に、大台野一帯の今度の整備計画についてですが、大台野広場は、平成10年度から千畑カントリーパークとして整備を開始し、ラベンダー園を核として、芝生広場、大型遊具を配した冒険広場、グラウンドゴルフ場、マレットゴルフ場、多目的運動広場及び管理棟を整備し、その後、散歩道の舗装など、平成19年度まで順次整備してきております。平成25年度の利用実績は、約5万2,000人となっているところです。こうした大台野広場の今後の整備については、まずは核となっているラベンダー園の充実を優先したい考えで、来年度から町のオリジナル品種美郷雪華を増殖し、面積拡大をしていく計画です。その現状の面積から数年かけて三、四十%ほど面積拡大させ、ルームフレグランスの製造販売とあわせ、ラベンダー園の魅力向上を図りたいと考えております。また、隣接地に試験栽培しております生薬についても、事前に町に申し込みをいただければ、栽培圃場をお見せすることとしており、大台野広場の魅力付加につなげてみたいと考えております。

なお、それ以外の議員ご提案の季節ごとの草花などの植栽につきましては、管理体制や費用対

効果の観点も含めて慎重な検討が必要ですので、今後の検討課題として認識いたしたいと存じます。まずは、美郷雪華の増殖によるラベンダー園の魅力向上により、大台野広場一帯をラベンダーの郷、そしてさらに美郷町全体が美しい郷美郷のイメージ醸成になりますように努めてまいりたいと存じます。

次に、町民の癒やしや活力につなげるための防災行政無線の活用についてですが、これまで町の防災行政無線では、Jアラート、全国瞬時警報システムによる災害気象情報を主として放送してきておりますが、ほかには地域を区切った有害鳥獣の出現による危険注意情報や春と秋の火災予防の呼びかけを兼ねた機器運用試験放送を実施してきているところです。県内の他自治体での利用を調べてみましたが、議員ご説明のとおり、一部の自治体では、美郷町と同様に気象情報を放送しているほか、火災発生情報や朝昼夕の時報、そして、イベント情報なども放送している自治体もある旨伺っているところです。ところがこうした放送に対しては、議員も先ほど触れられましたが、美郷町と同様に一部の方から苦情が寄せられるケースもあるとのことで、放送内容について十分な配慮が必要なことは、どこも一緒のようです。したがって、議員ご提案の朝や夕刻の癒やしにつながる音楽放送についても、町民の価値観によっては逆効果になる危惧もありますので、実施については十分な検討が必要なものと存じます。また、活力につながるさまざまな情報提供につきましても、放送内容が多く町の民から理解される内容であることが前提となりますので、癒やしにつながる音楽放送と同様に、十分な検討が必要と存じます。

いずれ議員ご指摘の趣旨は、十分に理解しているつもりですので、他自治体の例もさらに調査するとともに、美郷町の放送環境の長所と短所を把握しながら、実施の可否について今後十分に検討してまいりたいと存じますので、どうかご理解をお願いいたします。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「はい、再質問あります」の声あり）再質問を許可します。

○17番（深沢義一君） 中富良野町との自治体間交流、将来的な展開に期待したいと思いますし、また、大台野一帯については、美しい郷づくりのため検討するというので、よろしく願いしたいと思います。

また、防災行政無線についても、住民感情ということもありますので、これもすぐということにはなかなかないと思いますが、まずは住民からの意見なども聞きながら、まず他町村でやっている、先ほど話したように「七つの子」が夕方に流れてくる、そういった癒やしの効果ということも私はあると思いますので、その辺もひとつよろしくご検討していただきたいと思います。

ところで、美郷町には名水百選に入る清水の郷の湧水、それから、生薬を栽培しながらの平場の森、そしてラベンダー園、そして温泉が3つ、さらには酒蔵が3つ、そして、日本酒で乾杯推進条例を制定している町であります。これら心と体を癒させる町、美しい美郷。自然豊かな美しい景色を見て、温泉に入って、おいしい料理を囲んで地酒で乾杯。至福の時間を体感していただけるのではないのでしょうか。そこで町長、これは再質問になりますが、水環境に対しても条例を制定しておるといふこともありますし、どうでしょう。癒やしの郷美郷として、癒やしの郷宣言も私としてはインパクトのあることではないかと思いますが、町長のお考え、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。

癒やしの郷については、美郷町が様々な取り組みの終着点として目指すべきビジョンあるいは方向と認識しながら、一つ一つの取り組みを重ねているところです。議員ご提案の癒やしの郷宣言についても、その美郷町が目指すイメージ、終着点と共通する部分でありますので、前向きに検討させていただきたいと思います。

○議長（高橋 猛君） 次の質問をお願いします。

○17番（深沢義一君） 次に、宿泊交流施設がもたらす経済効果と地域活性化についてであります。

旧仙南東小学校を宿泊交流施設として、ことし、宿泊棟建築に着手するわけではありますが、スポーツ合宿誘致や美郷町の資源を利用した各種の体験活動や交流活動を実施し、広域的な交流人口拡大と滞在型交流の推進を図ることを目的としておるといふことでありますが、スポーツのみならず、文化面においてなど、交流人口の拡大により地域の活性化へとつながるものと大いに期待するものでありますが、合宿誘致や大会誘致など、町としての取り組み方について伺いたいと思います。そしてまた、その交流人口の拡大によりもたらされる経済効果についても大きく期待するものですが、その経済効果についての考えもお伺いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

宿泊交流施設がもたらす経済効果と地域活性化についてですが、まず、このたび整備する宿泊交流施設の特徴ですが、施設自体に体育館を備えていること、そして、徒歩圏内に美郷総合体育館リリオス、美郷町南体育館の2体育館があること、さらに、場合によっては仙南小学校の体育

館も活用できるとすれば、徒歩圏内に合計4つの体育館があることだろうと存じます。このことは、スポーツはもとより、マーチングなどの文化活動でも、分散利用とはなりますが、かなりの大きい大会が開催可能であることにつながります。また、同じように徒歩圏内にステージと客席を持つホール、つまり美郷町公民館もあり、利用の仕方によってはさらに幅広い活用も想定できるものと考えているところです。そのため、その利用促進については、こうした特徴をわかりやすく記したパンフレットなどを作成するとともに、これまでトレーニングセンターみさとを利用していた団体や一定の県内外の高校、大学などに対してパンフレットを送付するなど、合宿誘致、勧誘に努めてまいりたいと考えているところです。また、町職員においては、直接つながりを持つ高校や大学などについて、口頭などで積極的に働きかけていくようにしてまいりたいと考えております。議員各位におかれましても、お知り合いでお声がけできる方には、どうか働きかけをよろしく願いいたします。

なお、宿泊交流施設の整備に当たっては、秋田県市町村未来づくり協働プログラムの一つとして整備する関係から、県との連携による利用促進プログラムも実施していくこととなっておりますので、今後県とも十分に調整してまいります。

また、先ほどの熊谷隆一議員への答弁でも触れさせていただきましたが、2020年開催予定の東京オリンピックに向けて、海外選手団の練習会場としてもエントリーしてまいりたいと考えているところです。

また、合宿や大会誘致に係る経済効果につきましては、波及効果の推計方法により産業部門別に最終需要増加額を設定した上で、最終需要増加額に係数を使用するなどして直接効果から二次波及効果まで生産誘発額を算出し、また、粗付加価値誘発額や雇用者所得誘発額も推計し、その各項目を合算することで推計できるようですが、短時間でできるものではなく、また、専門家からのご指導もいただかなければ推計そのものが難しいと存じますので、今後施設整備の進捗とあわせ、また、誘致できる大会等が見えてきましたら、必要に応じて推計してまいりたいと存じますので、どうかご理解をお願いいたします。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「はい、再質問です」の声あり）再質問を許可します。

○17番（深沢義一君） ただいまの町長の答弁にありましたように、PR活動については、本当に頑張っていたきたいと思えますし、また、もちろん私も含めてさまざまなつながりを持って、さまざまな大会、合宿の誘致につながるようにみんなで誘致に向けて頑張っていきたいものだと思います。

そして、質問になりますが、ただいまの答弁の中にもありましたし、また、先ほどの熊谷議員の質問、それに対しての答弁の中にもありましたが、宿泊交流施設の近くにはリリオスがあるわけではありますが、リリオスは、平成25年度、これまでに40近くのスポーツ大会が今年度開催され、大勢の方々が県内外から来町されておるようであります。そして、その訪れた方々による経済効果も、先ほど町長がおっしゃったように、大きなものがあると思っておりますし、また、リリオスはバドミントンの国体開催場であったわけでもありますが、ことし1月、2020年東京オリンピック開催決定を受けて、国内で行われる国際スポーツ大会の事前合宿を目指して県でも取り組んでいくと。市町村の担当者にもそうしたことの説明会があったというふうに聞いております。その具体的なこととして、バドミントンの北都銀行とのつながりのある強豪国インドネシアのバドミントンチームの合宿誘致を目指した動きも県であるようにも伺っております。1992年、バルセロナオリンピックで金メダルを獲得した強豪チームの合宿、ぜひ当町でもと思うわけですが、関係団体との協議など、クリアしなければならないことも多々あると思っておりますが、先ほどの町長の答弁、合宿誘致に向けて頑張っていきたいというようなご答弁でよろしいのでしょうか。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。

バドミントンの海外チームについてのご質問ですが、新聞報道等も出ているわけですが、町としましても、既に秋田県の関係者並びに北都銀行の関係者について、私どもの町は平成19年国体でバドミントンを開催した地であることを強調しながら、ぜひともそうした海外のチームが来た際には、美郷町において何らかの活動をしてもらいたい旨の要望を既に行っておりますので、引き続きそうした要望を重ねてまいりたいと存じます。

○議長（高橋 猛君） それでは、次の質問に入っていただきます。

○17番（深沢義一君） 次に、先ほどの質問と同じように、交流人口の拡大を視点にしての質問です。

全国みさとサミットの開催をということについてであります。質問に入る前に、通告書に大変、私国語が苦手なほうで、通告書の3ページ1行目に、「町」という字につけ足して「村」を書きましたけれども、「みさと」のつく村は合併によって今はなくて、1市8町でありましたので、市や町に呼びかけてということで訂正いただきますよう、まずはお願いいたします。

さて、先ほど来質問いたしておりますが、内容はいずれも当町の特徴ある交流人口の拡大に向けた取り組みについてというものであります。当町の取り組みやそれぞれの自治体の特色ある

取り組みは、研修視察としてなど交流人口の拡大、観光資源ともなってきたと思います。また、当町としても、他自治体の取り組みを学び、知ることは大変大事なことであり、そうしたことから交流促進プロジェクトの一つとして、全国にある「みさと」を冠した市や町などに呼びかけて、情報交換、交流の場をつくり上げてはと考えるわけではありますが、今現在、全国に「みさと」を冠する市が、埼玉県内の三つの郷と書く三郷市1市であります。当町と同じく美しい郷と書く美郷町が3つ、それに山里などの里の字を用いた美里町が3つ、また、同じ山里の里のついた会津美里町、そして、三つの郷と書く山梨県市川三郷町の合計8つの町があるようであります。そのうちの7つの町については、当町と同じ平成16年あるいは17年、18年に合併してできた町であり、特色あるまちづくりを展開しておるようであります。そうした同じ名前ということからの交流ということで、交流、研修を目的にみさとサミットを開催してはと提案するものでありますが、町長の考えをお伺いいたします。特に、まずは当町と全く同じ字句の島根県邑智郡美郷町、宮崎県東臼杵郡美郷町は、遠く離れた地でもありますが、当町とは全く異なる気候風土があるのではと思うところでもありますし、それがゆえに、私どもにとってはもちろん、お互いにとって新鮮味のある交流につながるのではないかと期待感を持つものであります。とりあえずはまずこの2町への呼びかけからでも進めていってはと思うわけではありますが、町長のお考えも伺いたいと思います。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

全国みさとサミットの開催についてですが、「みさと」という読みが入っている自治体については、先ほど議員がご説明のとおりです。そこで、みさとサミットについての見解ですが、私も議員同様の考え方にあります。名前が同じことを由来にした自治体交流は、きっかけをつくりやすいですし、また、気候風土が違うために、交流が持つ意義も深いものと認識しております。一方、現在の私どもの状況は、総合計画に基づくまちづくり戦略プロジェクトの一つに、交流促進プロジェクトを据え、かねてより交流のあった東京都大田区を初めとする自治体間交流、そして、学・官連携としての県内の大学との交流、さらに産・官連携としての企業との交流など幅広く展開していることは、議員もご承知のとおりです。また、来年度からは、先ほど来お話がありますが、北海道中富良野町とのラベンダーを介した交流もスタートすることから、私どもの身の丈を思料しますと、まずは基盤をもう少し固め、既定の交流について限られたエネルギーを傾注することが必要ではないかと考えております。したがって、議員ご提案の全国のみさとサミット

は、その意義を認めるところですので、来年以降の取り組みとして意識していきたいと存じますので、どうかご理解をお願いいたします。

また、昨年12月、実は島根県的美郷町から、担当者レベルでしたが、交流の打診がありました。そして、ことし1月には、東京都有楽町で開催されたイベントの際、私どものほうから宮崎県美郷町のブースを訪問し情報交換をしております。さらにことし2月には、宮城県美里町物産観光協会役員の方から、民間交流について問い合わせがあり、美郷町観光協会を紹介したという状況もありますので、あわせてご理解いただきたいと存じます。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「再質問ではありませんが、最後に一言だけお願いいたします」の声あり）発言を許可します。

○17番（深沢義一君） ありがとうございました。

何でもふやせばいいということではないと思います。ですが、今の町長の答弁にもありましたように、他の美郷町さんからもラブコール的なこと、それから、やはり意識はされている町もそれぞれあるということだと思しますので、そちらのほうはまた時間をかけながらでも進めていただければと思います。以上で終わります。

○議長（高橋 猛君） これで、17番、深沢義一君の一般質問を終わります。